

■ 「水源地の村」からの提言シンポジウム」に協力

8月26日 橿原市商工経済会館大ホールで開催された「森と水の源流館」主催のシンポジウム「水源地の村」からの提言「環境に生かされた地域づくり」に協力しました。



基調講演は、上原 巖 氏（東京農業大学森林総合科学科准教授）

タイトルは「森林療法とはなんでしょう？～山林をいかした健康づくり～」



森林療法は山を歩き自然の中に身を置くことで、知的障害の子供の感情が安定になったり、成人のうつ病やストレスが改善されるなどへの効果が科学的にも証明されている療養である。

「来る人の立場に立った散策道の整備や療養を理解した人材の育成が必要である」と話された。

体験と提言

- ・川上村での森林環境学習の体験から（体験校学習）
- ・山村地域での体験学習の今後（泉谷木材商店専務 泉谷繁樹氏）



森林環境教育の事例報告が行われ、泉谷さんは熱心に環境活動を行う神戸松蔭高校を紹介され、「普通の女子高生を変えたのは、川上村の圧倒的な自然とそこでの体験、村の人の山への熱い思いである」と話された。参加者は森林の大切さをあらためて考える機会になった。